

要旨

〈研究目的〉

子育てと介護を同時に行う女性への看護職の支援を探求し、今後の子育てと介護を同時に行う女性への支援を考察する。

〈研究方法〉

本研究は、半構造的インタビューによる質的記述的研究であった。研究対象者は、子育てと介護を同時に行う女性への支援経験がある看護職6名であった。

〈結果〉

本研究結果において、子育てと介護を同時に行う女性への看護職の支援として、3つのカテゴリと9つのサブカテゴリを抽出した。

1. 【子育てと介護で追い詰められた状況から抜け出せるよう導く】支援では、〈支援の方向性を検討するために状況確認をする〉ことで得た情報をもとに、〈子育てに介護が加わったことによる混乱を整える〉ことで、女性が自分の力で対処できるよう導き、先の見えない不安を軽減するために〈病気や介護の見通しを説明する〉、〈被介護者の看取りを見据えて女性と一緒に看取りに向き合う〉支援を行っていた。
2. 【子育てと介護の同時進行で負担を抱える女性をいたわる】支援では、〈子育てと介護による身体の負担を気遣う〉ことで身体的負担を、〈溜め込んでいる気持ちを吐き出してもらう〉ことで精神的負担を軽減し、〈子育て支援サービスや介護保険サービスを利用して女性を休ませる〉ことで、女性が自分のために使うことができる時間を確保していた。
3. 【女性とその家族に関わる多職種を巻き込む】支援では、〈女性とその家族を取り込み多職種で話し合う〉ことで、子育てと介護の方向性の認識の一致を図り、〈多職種からのアプローチを取り入れる〉ことで、支援の偏りを防ぎ、様々な職種から支援を受けることができるよう働きかけていた。

〈結論〉

看護職は、女性の困りごとを軽減するため、女性が自分の力で前へ進むことができるよう相談やケアをしながら、どうしたらよいか共に考えることを大切にしていた。また、看護職には、女性のよき理解者であり心の支えとして情緒的な支援の必要性が示唆された。さらに、子育てと介護に別々に関わるのではなく、家族を単位とした支援を行うために、多職種の連携を推進することが大切である。ダブルケアの負担や支援はあまり知られておらず、看護基礎教育や現認教育で取り上げ、支援を向上することが今後の課題である。